

令和２年度桑名市地方創生会議 会議概要

日時・場所	令和２年９月２９日（火）１４：００～１５：３０ 桑名市役所 ３階第２会議室
出席者	委員：５名 市：３名 事務局：５名
会議次第	１ 開会 ２ 役員選出について ３ 検証事項 ・令和元年度 桑名市地方創生推進交付金事業 「住吉地区および七里の渡し周辺のまちづくり推進事業」 ４ 報告事項 ・第２期「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けて ５ その他 ６ 閉会
概要 (主な意見)	１ 開会 ・平野副市長あいさつ ２ 役員選出について ・西村訓弘委員を会長に、小笠原まき子委員を副会長にすることで、委員一同同意。 ３ 検証事項 ・令和元年度 桑名市地方創生推進交付金事業 「住吉地区および七里の渡し周辺のまちづくり推進事業」 【事務局・事業担当課より概要説明】 ・水辺の活用ということで、本日の報告内容（民泊やインフォメーションショップ）は“堤防”の内側の話しになるが、堤防を上がると解放感があり、日本でも有数の３つの河川を眺めることができるので、その景色を楽しめる空間あるとよいのではないかな。 ・友人が桑名に滞在する機会があり、ホテルの予約を取ろうとしたところ満室で、その理由は、ナガシマリゾートを目的に、安価な市内のホテルを利用していることであった。利用者である家族やカップルが市内に滞在し、回遊してもらうチャンスである。マスタープランにある観光客の回遊イメージは、大人を対象とした内容であると感じられたので、もう少し若者向けのイメージも良いのではないかな。

- ・昨年、外国人実習生と市内を“街歩き”をする機会があり、歩いて見て回ると、いろいろな発見があった。ただし、外国人にとっては見るものがあるが、日本の観光客にとっては、少し物足りないようにも感じられたので、石取会館の周辺など、工夫して見せるできるのではないかな。
- ・事業を進めるにあたっては、市民の声もよく聞いて進めていただきたいと思う。街並みや景観を楽しんでもらうためには、“人力車”を走らせるとよいのではないかな。
- ・駅前開発でナガシマのホテルが整備されることになり、駅から旧市街地へどのように誘導するかも重要になってくる。水辺エリアにおいても、事業者との協力により、河川の関係でハードルは高いと思うが、水辺エリアとナガシマリゾートを舟運でつなぐということも考えられるのではないかな。
また、国が整備を進めている公園施設とあわせて、上手くエリアの雰囲気盛り上げていっていただきたいと思う。先のことであっても、どのように変わるのかイメージを早めに周知して、PRしていったらどうか。
- ・とても良い計画であると思う。コロナによって大きく社会が変わる中、目的とする施設や物を見に行くという観光から、ある場所に滞在して過ごすという長期的な観光に変わっていかうとしている。“観光の日常化”として、“住む”ということも観光のかたちの一つになるのではないかな。民泊もその一つであり、利用が増え、施設自体にもお洒落な雰囲気があれば、周辺住民の意識も変わる。人が集まる憧れとなるような場所・雰囲気を創っていくイメージを持って、まずは、それをリードする企画の一つひとつ続けていっていただきたいと思う。

4 報告事項

- ・第2期「桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けて

【事務局より概要説明】

- ・将来像に向かって進めていく中で、現状はコロナ禍にあり、市民は様々な状況にある。行政の見える化といっても、市民目線では、まだまだ分かり難い。市が進めようとする方向性を、市民にとっても分かりやすく伝えるようにしてほしい。
- ・コロナで、リモートワークができるようになり、地方へ移住する動きもある。そのような動きの中で、桑名は住みやすいまちであると思うが、交通手段については、自動車が無いと（乗れないと）不便である。若い人、働いている人はよいが、高齢者になり車が運転できなくなると、より、そのように感じる。駅前が新しくなり、M a a Sといった新たなサービスが生まれる中、様々な移動手段が考えられるので、まちづくりを進める中で、便利さもあわせて考えてほしい。
- ・計画づくりの段階から携わってきて、言葉は変わったとしても、方向性が

	大きく変わるものではないと思う。計画では、“暮らしやすいまち”が目標に掲げられている。私は、日頃、子ども、外国人、高齢者の方との関わりが多いが、いわゆる“弱者への配慮の視点”が、計画にも必要であると思うし、それがまちの中でも見えてくると良いと思う。 ・いくつかの会合に出席させていただき、いろいろな方と話しをする中で、“駅が新しくなったこと”を知らない人がいた。これだけ情報を頻繁に発信していても、その情報を受け取る側次第であると感じた。行政のデジタル化と謳われているが、情報の発信手段も多様化しているので、工夫していただきたいと思う。行政が、一番情報が行き届かないとの声もあるので、計画の内容にしても、計画を進める事業にしても、どのように伝えていくか考えていただきたいと思う。 ・“オンライン”による会議が当たり前のように行われるようになった。仕組み自体は以前からあったが、関心が無かった、体験が無かったことで使われていなかっただけであるが、それがコロナ禍で一気に変わった。これからは、意識を変えていく必要がある。道具は揃っていて、それをどのように使うのか。DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進とあるが、例えば、市民全員とつながることもできる。 ・企業誘致の推進では、どのような企業をどのような基準で誘致するのかが重要であるとする。企業誘致は移住者も伴い、桑名市で暮らす人も増えることになるので、どのようなまちを目指すのか、あわせて考える必要がある。 5 その他 (特に無し) 6 閉会
担 当 課	市長公室 政策創造課